

カンボジアに人材育成拠点

クボタ建設

水道管工事の技術者強化

クボタ建設（大阪市浪速区、内田睦雄社長）は、カンボジアで技術者の育成に乗り出す検討を始めた。5年後程度をめどに、現地で人材育成拠点の設立を目指す。東南アジアの水道管工事を手がける現地人材の育成を強化するのが狙いで、カンボジアから周辺国をカバーすることも視野に入れている。同社では海外事業の拡大に力を入れており、中期的に下水道工事などの受注拡大を狙うカンボジアやラオス、バングラデシュでの事業展開を加速させる。

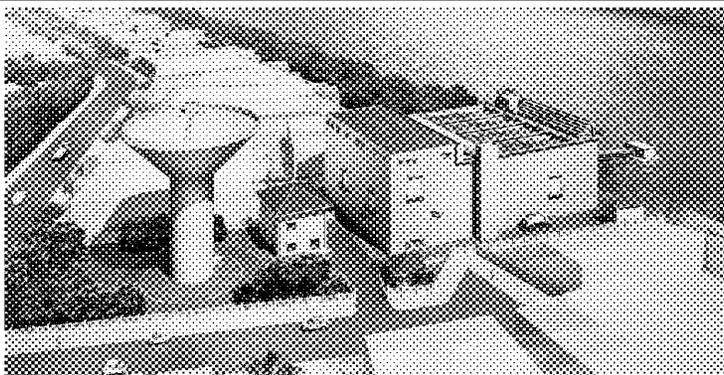
クボタ建設はカンボジアに設置を構想する拠点で、オン・ザ・ジョブ・トレーニング（OJT）などを通じて現場の施工管理や工程管理、安全管理、品質保証などを担うエンジニアを育成する。同社は1958年にカンボジアで初めて上下水道工事を受注して以降、同国で存在感を示してきた。30年以上にわたる

取引関係にある協力会社など現地でのネットワークが強みだ。

さらにカンボジア人のエンジニアを育成すること、現地の技術者を安定的に確保できればコスト的にも勝

負できる」（井原直己 常務執行役員）と、中

国やインドなど新興勢力に對抗できる体制を整える。また周辺国への工事案件にも人材を



カンボジアで建設が進む浄水場の完成イメージ。伴って、今後は政府開発援助（ODA）による有償資金協力（円借款）案件が増える想定しており、同社の重点市場と位置づける。

投入する考えを示す。カンボジアは25年に水道普及率100%を掲げており、上水道の整備は進んできた。一方で下水道の普及はまだ不十分。経済成長に

同社の海外事業は売上高30億円の規模で、カンボジアでのODAによる上水道関連工事が主力。25年度には50億円へ引き上げる計画を掲げている。